

活用目的				地域課題キーワード	分析者			
現状の把握	課題の特定	戦略・施策の検討	効果の検証	【医療・介護・福祉】従業員の業務量削減	教育機関	地方公共団体	研究機関	民間企業・団体
○	○	○				○		

RESAS、V-RESAS 活用の目的 島根県海士町における介護職員の高齢化・人材不足の課題を解消し安定した介護供給を実現するための施策を検討する。

分析内容

- 人口推移を見ると、生産年齢人口は2010年に1,201人であったが、2020年には1,118人と大きく減少している。
- 出生数・死亡数/転入数・転出数の分析を見ると、社会増減において2015年から2020年にかけて転出入数はほぼ均衡している。転入数は増加しているが人口増加には至っておらず、海士町内の各産業における人材確保が困難になっていることが分かる。
- 年齢階級別純移動数の時系列分析より60歳以上の移動数に着目すると、海士町では転出超過となっている傾向が読み取れる。適切な医療設備がない、定員オーバーで介護施設に入れないなど、医療・介護・福祉に何か課題があり海士町を離れている可能性が高い。
- 海士町の介護の需給両方の側面を見ると、施設を必要とする要支援・要介護レベルの数が増えている一方で、介護施設職員の人数及び年齢構成を見ると高齢化が進んでいる。
- 介護施設職員の業務量を可視化すると、「間接業務：見守り・コール」における業務量が大きい割合を占めている。

課題

- 安定した介護供給に向けて介護人材を確保するため、業務負担となっている「間接業務：見守り・コール」を削減する。
- ヒアリング結果を踏まえ「間接業務：見守り・コール」を削減するためには、「転倒や急病・急変のリスクに1人に対応する不安から生じる心理的負担」、「16時間の長時間労働となる夜勤勤務時間中の身体的負担」を解消する必要がある。

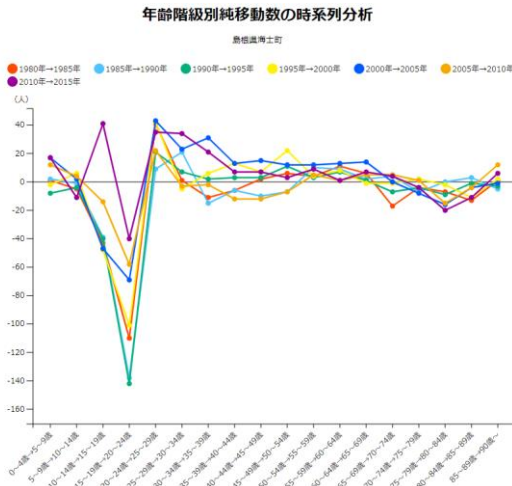
戦略・施策 ICT機器（ベッドセンサーと排泄予知機器）を活用して下記を実証調査として実施する。

- 転倒や急病・急変を事前に察知できるようにすることで、心理的負担を軽減する。
- 介護職員のサポートが不要な状態や業務が集中しない時間帯を把握することで夜勤時の業務量を削減し、身体的負担を軽減する。

取組結果 実証調査の結果は下記の通りとなった。

- ベッドセンサー導入により夜勤中の職員の心理的負担が軽減される傾向が確認でき、職員からの継続利用への意向も強い。
- 一方、見回り回数の減少といった身体的負担の軽減までは至らなかった。

年齢階級別純移動数の時系列分析



【出典】「RESAS（地域経済分析システム）-人口の社会増減-」
 (https://resas.go.jp/population-society/#/movement/32/32525/2/1/2021/5.333900736553437/41.42090017812787/142.29371418128918) (2023年3月13日に利用)

施策の検討で利用したフレームワーク



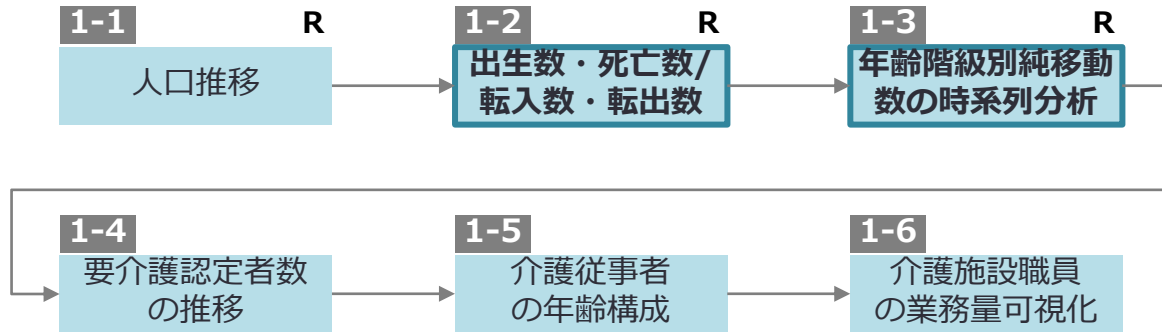
【出典】スマートアイランド推進実証調査 実施内容紹介「ICTを活用した介護業務の効率化プロジェクト」

最期まで暮らせるまちづくり に向けた福祉魅力化の検討

島根県海士町

活用目的				地域課題キーワード	分析者			
現状の把握	課題の特定	戦略・施策 の検討	効果の検証		教育機関	地方 公共団体	研究機関	民間企業 ・団体
○	○	○		【医療・介護・福祉】従業員の業務量削減		○		

利用データ・メニュー	
【人口】人口構成、人口増減、人口の社会増減	



定量的な分析
 定性的な分析
 情報の整理/施策の検討

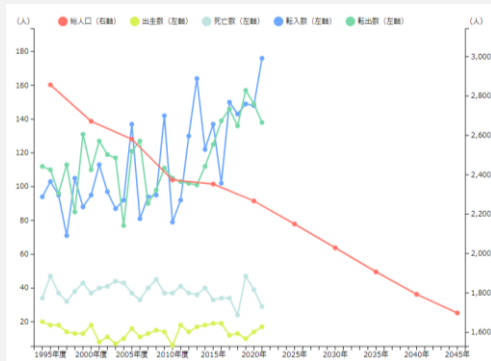
R RESASを活用した分析 **V** V-RESASを活用した分析

- 福祉魅力化の観点から海士町の人口動態を分析し、課題感を把握した。
- 自治体や事業所のデータを集約しているデータ分析システムを活用し、介護の需要及び供給の両面から福祉魅力化に向けた真の課題を特定した。

1-2 **R**
出生数・死亡数/転入数・転出数

海士町の産業の人材確保の現状を把握するため、出生数・死亡数/転入数・転出数の分析を行った。自然増減では2020年の出生数は14人、死亡数は39人と死亡数が出生数を大きく上回っている。社会増減では2015年から2020年にかけて転入数と転出数はほぼ均衡状態にあり、転入数は増加しているが結果として人口増加には至っておらず、人材確保が困難な状況である。

出生数・死亡数/転入数・転出数の分析

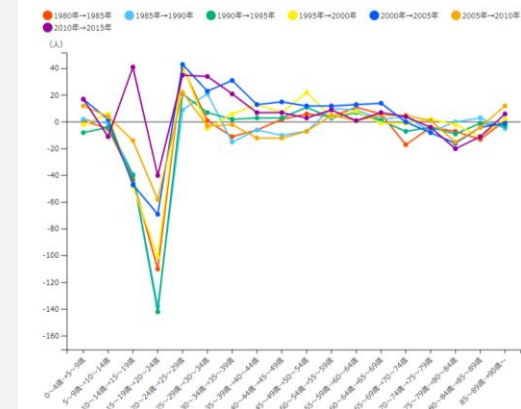


【出典】「RESAS (地域経済分析システム) -人口増減-」 (<https://resas.go.jp/population-sum/#/graph/32/32525/0.0/2020/2/10.13699111208023/36.0968296/133.0961756/->) (2023年3月13日に利用)

1-3 **R**
年齢階級別純移動数の時系列分析

高齢者の社会増減の動向を把握するため、年齢階級別純移動数の時系列分析を行った。60歳以上の移動数に着目すると、海士町では転出超過となっている傾向が読み取れる。高齢になるに伴い、海士町を離れることを選んでいることが分かり、海士町における医療・介護・福祉に課題がある可能性が高い。

年齢階級別純移動数の時系列分析



【出典】「RESAS (地域経済分析システム) -人口の社会増減-」 (<https://resas.go.jp/population-society/#/movement/32/32525/2/1/1/2021/5.333900736553437/41.42090017812787/142.29371418128918>) (2023年3月13日に利用)



定量的な分析
 定性的な分析
 情報の整理/施策の検討
R RESASを活用した分析 **V** V-RESASを活用した分析

- 現場へのヒアリングを基にデータ分析から特定した夜勤の介護施設の現場の課題を詳細化した。
- 詳細化された課題に対してICT機器を活用した解決策を検討した。

2-1

現場ヒアリングによる課題詳細化

データ分析から「間接業務：見守り・コール」における介護職員の業務量に削減の余地があることが明らかになったため、介護施設の現場に対するヒアリングを追加で実施することで課題を詳細化した。結果として、介護人材が不足している夜勤において見守り・コールに関連する下記2点の課題が生じていることを特定した。

- ① 転倒や急病・急変のリスクに1人で対応する不安から生じる心理的負担
- ② 16時間の長時間労働となる夜勤勤務時間中の身体的負担

介護施設に対するヒアリングによる課題の詳細化



【出典】 [スマートアイランド推進実証調査 実施内容紹介「ICTを活用した介護業務の効率化プロジェクト」](#)